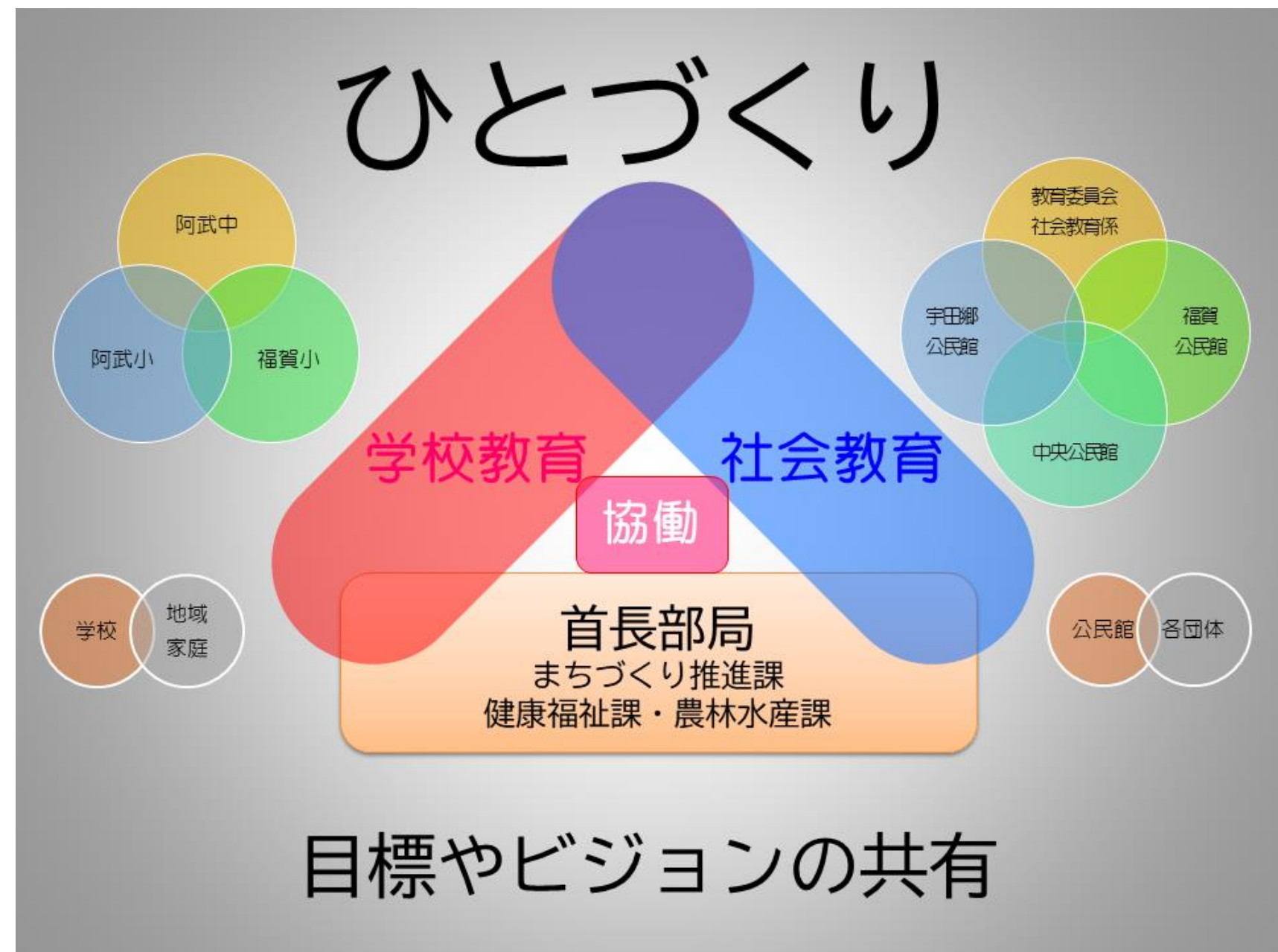


阿武町の推進構想

1 地域連携教育の「成果」と「課題」

- 育てたい心や力「きづく」「きめる」「かかわる」「やりぬく」を意識した取組が、学校教育だけでなく社会教育にも広まりつつある。
- 「地域学校協働活動推進員」の動き・働きが見えづらい。
- 地域連携教育について、教育委員会と首長部局との情報交換・情報共有が十分にできていない。
- 保護者・地域の受け身の姿勢や、手伝い・支援という意識を連携・協働に変えていく必要がある。

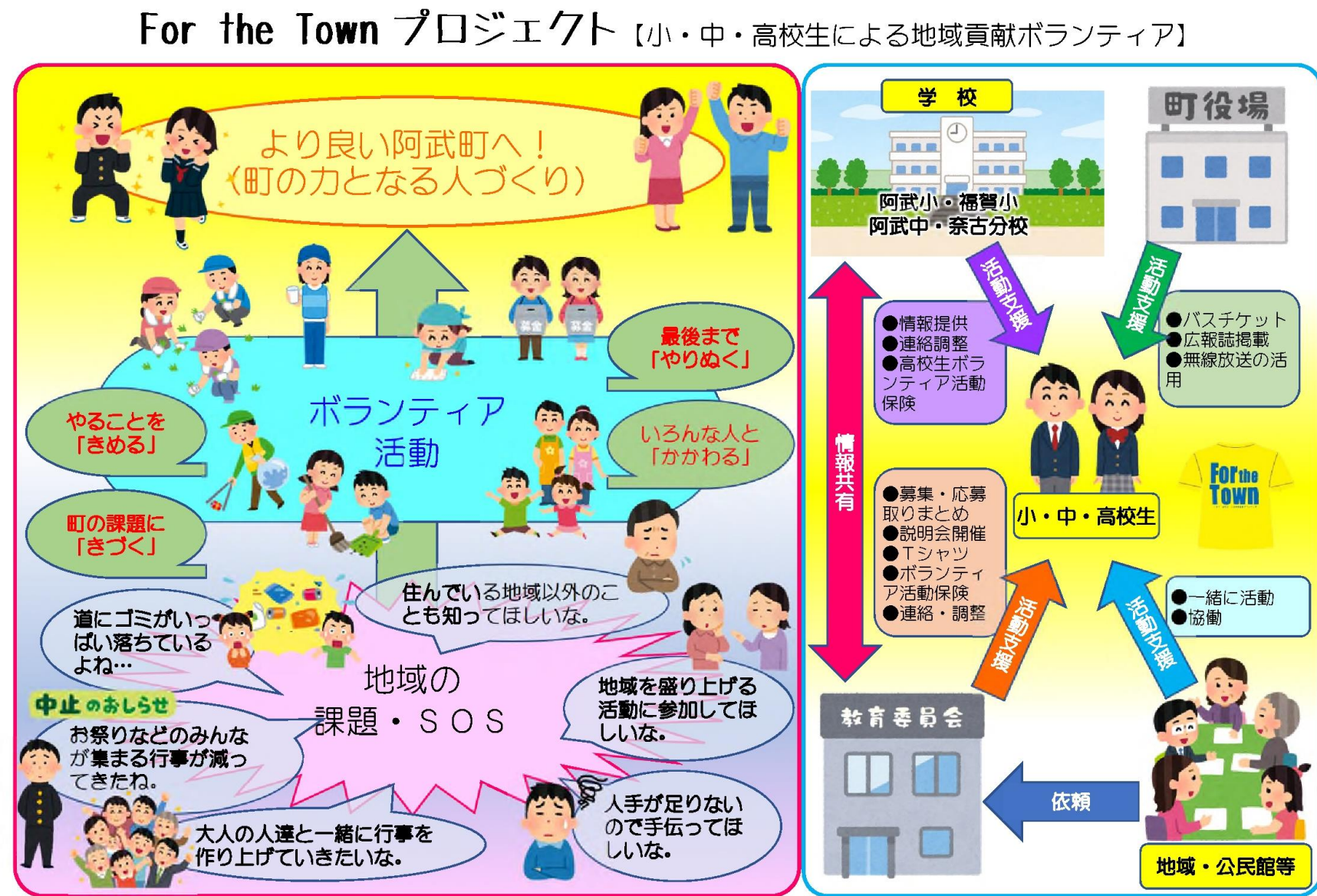


2 課題解決に向けた重点取組事項

- 戦略会議出席者、地域連携教育担当者の枠組みではなく、町内小・中学校校長、地域学校協働活動推進員、公民館館長・主事、学校と関わりのある首長部局関係者、県立高等学校教頭、教育委員会事務局が一堂に会して、方向性の確認や振り返りができる場を設定する。

3 重点取組事項の進捗を測る指標

- 地域連携教育に関わる合同会議の実施回数



町立阿武小学校



「通学路の安全マップ」をよりよくするために学校運営協議会委員、中学1年生から意見をもらった。

町立阿武中学校



地域の方の指導のもと、イカダを製作し、日本海に挑戦。温かい声援の中、全グループが漕ぎ切った。

町立福賀小学校



福賀すいかの生産地を定期的に訪問し収穫までの作業を体験。大きなスイカは福賀の自慢の1つ。

あぶ地域協育ネット



「よりよい阿武町」をめざして、町内の小学生・中学生・高校生がボランティアに参加。